

黑蝦蟇

カズ

〔倭名類聚抄十九〕黑蝦蟇。陶隱居本草注云、蝦蟇黑色、謂之蛤子。和名豆知、加閉流。

〔箋注倭名類聚抄八〕證類本草鼈條引云、又一種黑色、南人名蛤子、此引云蝦蟇黑色、亦誤、下總本、

陶隱居注作兼名苑注、恐非。略中。本草圖經云、即今所謂之蛤、亦名水雞是也、本草和名蛤子在鼈條、

別無和名、按蛤是後世依鳴聲合々諧聲字、與蜃盒字、其原不同也。

〔康賴本草下〕蝦蟇。和久呂加惠留、生水并田中。

赤蝦蟇

〔重修本草綱目啓蒙二十八〕山蛤。ヤマガヘル。アカバヘル。京中略

山谷ニ多シ、形鼈ノ如クシテ、略跳ルコト捷クシテ捕ヘガタシ、人コレヲ捕ヘ、皮ト腸トヲ去リ、

醬油ニテ炙リ、小兒ニ與ヘ食ハシメ、疳疾ヲ治ス。略下。

〔日本山海名産圖會二〕山蛤

山城嵯峨、又は丹波、播州小夜の山より多く出す、又攝津神崎の邊にも出せども、其性宜しからず、凡笹原茅原のくまにありて、是をとるには、小き網にて伏せ、又唐網のごとくなる物の龍頭を兩手に挟み、こまを廻すごとくひねりて打ば、網きり、とまはりて、三尺四方許に廣がるなり、かくし得て腸を抜き、乾物として出す、其色桃色、繻子のごとし、手足甚だ長く、目は扇の要に似たり、

蟾蜍

〔新撰字鏡虫〕蟬比支。

〔本草和名十六〕蝦蟇。仁諸選。一名蟾蜍。楊玄操、上下市、余反、一名去、醜、楊玄操、一名去甫、一名苦蠶、一名仇道、小

品。一名蛙。取。一名蟾蜍。一名長股。已上三名、和名比支。

〔倭名類聚抄十九〕蟾蜍。兼名苑注云、蟾蜍占徐二音、餘、和名比木、似蝦蟇而大陸居者也。

〔箋注倭名類聚抄八〕按爾雅鼈龜蟾諸、郭注云、似蝦蟇居陸地、兼名苑注蓋本於此、說文、蝮、鼈、詹諸、

以蝮鳴者、尚書大傳亦作詹諸、兼名苑作蟾蜍、俗字也、下總本無形字、廣本同、按證類本草云、蝦蟇一